

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
理事長企画	多様性と包摂性が拓く日本腎臓学会の未来	日本腎臓学会の更なる飛躍には、多様性 diversity と包摂性 inclusion が不可欠である。男女共同参画は言うまでもなく、年代、所属組織、立場、分野など、様々な多様性を促進し包摂することが重要である。本セッションでは、多様な背景の演者からそれぞれの視点を話して頂き、相互理解を深め、日本腎臓学会が今後進むべき方向性を議論する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：アカデミアおよび企業の研究者）	日本語	理事長企画
総会長特別企画1	腎線維化メカニズムの解明と治療への応用：実用化に向けて	腎線維化に関する日本の研究者は長らく世界をリードしてきており、本セッションではその成果をまとめ、治療法の開発を通して実用化の道を探る機会とする。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	総会長特別企画
総会長特別企画2	日本のCKD対策の現状：腎疾患対策検討会報告書の発出5年目を迎えて	腎疾患対策検討会報告書の発出と日本腎臓病協会の発足から5年目の節目を迎え、これまでの進捗を振り返り、これからの取り組み方を考える機会とする。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：厚生労働省、行政、かかりつけ医、腎臓病療養指導士）	日本語	総会長特別企画
学会主導企画1	オンコネフロロジーガイドライン（仮）			日本語	学会主導
学会主導企画2	CKDガイドラインが導く新しい電解質管理 2023	CKDの電解質・酸塩基平衡の管理はmortalityの観点のみならず、QOLやフレイルといった patient centered outcomeも意識した管理がますます重要となってきた。本セッションでは新しいCKDガイドラインを念頭に、新規エビデンスと新薬の登場により見えてきた、これからのCKDの電解質・酸塩基平衡の管理についてお話しいただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	学術委員会
学会主導企画3	ここが変わった！CKD診療ガイドライン2023	2023年に新たに改定されたCKD診療ガイドラインの改定のポイントについてご提示いただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	学術委員会
学会主導企画4	徹底解説：血尿診断ガイドライン2023			日本語	小児、遺伝性疾患、 嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム1	高血圧発症機序と新規治療戦略	高血圧発症機序を考えなおすとともにARNIなど新しい高血圧治療薬の使用方法について議論する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	高血圧，心血管系
シンポジウム2	遺伝性尿細管機能異常症 up to date	遺伝性尿細管機能異常症の病態や臨床像に関する最新の知見をアップデートする。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	小児、遺伝性疾患、 嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム3	日本腎生検レジストリー/日本腎臓病総合レジストリー	2007年から登録が開始されたJ-RBR/J-KDRの現状や年次報告を行う。さらに登録データを活用し、継続して登録実績を有する施設からの公募研究について、HCV抗体陽性患者の腎生検の実態調査、ループ腎炎の腎生検の臨床像・組織所見の最近の調査、わが国のサルコイドーシス腎病変の疫学について発表を行う。最近増加している抗がん剤による腎障害について現在進行中の二次研究を中間報告として取り上げる。近年注目されている疾患について腎病理医より「Disease of the year 2023」として取り上げ、解説を行う。本企画を通じて、腎臓病の診療と研究、教育における腎生検と腎生検登録の重要性、わが国における腎生検登録の現況、データ活用による研究の進展と診療、教育への応用、近年注目されている疾患の病理像の詳細、などに関する知見を得ることができる。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：腎臓内科、腎病理、小児腎臓）	日本語	腎臓病対策委員会 （腎臓病レジストリー委員会）

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
シンポジウム4	リアルワールドデータをCKD診療に活かす（JSN/JAMI合同委員会企画）	RWDの臨床応用に関するJ-CKD-DB活用の成功例を共有することで横展開・更なる有効活用を目指す。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	JSN/JAMI合同企画運営委員会
シンポジウム5	進行性腎がんに対する集学的治療update	進行性腎癌に対する治療は、新たな治療薬の開発により日々進化している。がん治療における集学的治療は腎がん領域が非常に進んでおり、腎がんの集学的治療を理解することは他の悪性疾患治療にも応用できる。そのため、本シンポジウムでの知識の整理と最新の知見を確認することは会員にとって有益と考える。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：腎悪性腫瘍）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム6	心臓と腎臓を結ぶ missing link	心疾患と腎疾患の共通経路に迫る研究を紹介してもらおう。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：基礎）	日本語	高血圧、心血管系
シンポジウム7	先天性代謝異常症と腎疾患	小児の先天性代謝異常症は希少疾患も多く、重要な疾患でありながらもこれまで周知されてこなかった部分も多く、近年の遺伝学的診断法、治療法の進歩に伴う知見も踏まえ、現時点での最新の情報を共有したい。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム8	国際標準のANCA関連血管炎診療とは？	昨今ANCA関連血管炎（AAV）診療ガイドラインのアップデートが相次いでいる。特にRTXは国内外で立ち位置を確保し、補体を治療標的とした新規薬剤も国内外で使用承認された。本シンポジウムでは国内外のAAVガイドラインの比較から、本邦患者の実情にあったANCA診療とは何か議論する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：膠原病内科、免疫学）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
シンポジウム9	腎病理 CME：系統的腎病理教育シリーズ04 尿細管障害を考える	日本腎病理協会は、過去3年間、系統的腎病理教育シリーズとして、腎生検で見られる病変や病態をテーマとして取り上げ、その基礎から最新の知見までを深く考察することに主眼を置き、シンポジウム企画を行ってきました。臨床背景・特徴的所見のきちんとした捉え方（若手向き）に始まり、基本的な組織像への理解を深めた上で（若手向き）、鑑別診断（若手～中堅向き）- 典型例～関連する希少例（中堅～シニア向き）について、最近の知見（全聴衆へ）を含め総合的に提示します。病態を系統的に理解できるように図り、学会員の継続的なスキルアップに寄与することを目標とします。第1回：糸球体内皮細胞、第2回目：足細胞、第3回目：メサンギウム細胞に焦点を当て、多様な知見・知識と活発なdiscussionを参加された先生方と共有できたと考えています。そこで、今後は糸球体を離れて尿細管・間質・血管へと場を広げてゆくべく、今回はまず尿細管を選びました。腎生検における尿細管病変は、尿細管上皮の変性や壊死、基底膜変化、沈着、各種円柱・結晶など多彩で、近年病態の理解の進歩もみられる部位といえます。今年、尿細管にfocusを当てて、臨牀的観点からはじまり病理所見を傷害タイプに分けてとらえてわかりやすく解説いただき、最近の知見を含め尿細管障害への理解をより一層深めるセッションにしたいと考えております。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	腎病理企画/日本腎病理協会
シンポジウム10	糸球体腎炎の病態における免疫応答と補体制御	近年各糸球体腎炎に対する分子標的治療薬が議論されている。そこで本シンポジウムでは、IgA腎症、ループス腎炎、ANCA関連腎炎等、各腎炎の病態に関わるB、T細胞、好中球、マクロファージの役割や補体制御について議論する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：膠原病、免疫）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
シンポジウム11	CKD診療における行動医学的アプローチ	CKDの重症化予防には古典的リスクの管理とは独立して、患者自身の行動変容も有効とされる。CKD領域の新規薬物療法の恩恵を最大化することやwell-beingの観点からもCKDに対する行動医学的アプローチを重視した包括的リスク管理の重要性は増している。本企画では行動医学的アプローチのわが国における医学教育や疫学研究における位置付けや現状、CKD診療における効果的な実践手法とその展開につき講演・ご討議いただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：看護師、保健師、薬剤師、管理栄養士）	日本語	CKD（DM腎症は除く）
シンポジウム12	多発性嚢胞腎の遺伝因子と環境因子：それぞれの重要性と役割について	常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）は最多の遺伝性腎疾患であり、遺伝因子と環境因子の両方に影響される疾患であるが、それぞれの比率が分かっていない。以前は、遺伝因子の影響が大きいと考えられていたが、近年は、環境因子の影響が目立っている。そして、原因遺伝子変異は多彩であり、また、様々な環境因子も影響することが分かってきた。診断基準や予後分類についても世界的に見直しが進んでいる。今日までに判明している、遺伝的素因と環境的素因を整理して、今後の課題を考えていく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：泌尿器科医）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患
シンポジウム13	生体腎移植ドナーのヘルスケアと腎臓内科医の役割	腎臓内科医が腎代替療法選択時に献腎提供数が限られている我が国の腎移植では、生体ドナーからの腎提供が主流である。腎臓内科医が腎代替療法選択のひとつに移植を提示するためには、ドナーとレシピエントの両者の立場から、ドナー適応を評価できること、また術後のヘルスケア、とくにCKD管理について、術前からシームレスに診療を担う腎臓内科医の育成を目的とする。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
シンポジウム14	腎炎のあたらしい“モデル動物”の開発	IgA腎症、ループス、ANCA腎炎などの“動物実験モデル”の進歩を学ぶ。	○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
シンポジウム15	細胞死と腎の最新知見	近年、アポトーシス以外にも多くの細胞死、更に新知見が続く細胞内ストレス応答があり、さまざまな生命現象に関与していることが次々と明らかになっています。最新の知見を発表している研究者から、今後の腎臓学への応用を含め、判りやすく解説していただきます。	○ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：基礎研究）	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
シンポジウム16	尿管の制御による慢性腎臓病治療	増加し続けるCKD患者に対し、新しい治療標的の確立が課題である。このセッションでは、尿管に焦点をあて、尿管の制御機構の解明からあらたな治療法確立に向けての可能性についてご講演いただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
シンポジウム17	DKD治療の現状と今後（日本糖尿病学会合同企画）	糖尿病学会と連携してDKD進展に立ち向かう。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：循環器内科、糖尿病内科）	日本語	糖尿病性腎症合同委員会
シンポジウム18	腎臓オルガノイド研究の最前線	オルガノイドを用いた研究が腎臓の発生、生理、病態のin vitro モデルとして急速に発展を遂げています。今現在、何がどこまでできるのかの最新の知見を解説していただきます。	○ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：基礎研究）	英語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
シンポジウム19	心不全治療のファンタスティックフォーと腎臓	心不全治療においてミネラルコルチコイド拮抗薬・β遮断薬・サクビト rilバルサルタン、SGLT-2阻害薬の4剤による『The fantastic four』と呼ばれる集学的治療が提唱されている。4剤の腎臓とのかわりを議論する場を設けたい。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：循環器内科医）	日本語	高血圧、心血管系

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するのは◎）	セッション言語	領域
シンポジウム20	糸球体腎炎 up to date	糸球体腎炎の病態や治療について最新の知見を学ぶ。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：補体専門家）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
シンポジウム21	Advanced CKDにおける貧血管理：鉄補充・ESA・HIF-PH阻害薬の最新情報	HIF-PH阻害薬の登場後3年が経過したが、鉄補充の考え方、ESAとの使い分けなど、未だコンセンサスは得られていない。現在、JSN・JSDTそれぞれにガイドラインの改訂作業が進捗しており、エビデンスを総括する良い機会と考えられる。そこで本企画では、この分野のオピニオンリーダーの先生に集まっていただき、貧血管理に関する最新情報を提供していただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
シンポジウム22	腎生検病理診断コンサルテーション・アンド・レビュー	腎臓学会会員全員に広く案内を出し、日常の腎生検症例の中で結論が出ていない診断困難例を応募してもらったうえで、それらの症例に対し腎臓病レジストリー委員・腎病理標準化小委員が解析して病理診断を行う。3症例について病理診断をするともに、集まった症例をまとめた形で臨床病理的メッセージをレビューを行う。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	腎臓病対策委員会（腎臓病レジストリー委員会）
シンポジウム23	低Na血症の終わらない論争	低Na血症のガイドラインは様々あるが、ガイドラインのみでは対応できないことも多い。実臨床での低Na血症の診断と治療について専門医がどのようなことを気をつけて治療をしているか、各施設での現状をプレゼンしていただき、最後にパネルディスカッションを行う。	○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
シンポジウム24	電解質と酸塩基の診療アップデート	酸塩基電解質診療の最新的话题を知り、明日への臨床に役立てる。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
シンポジウム25	実臨床におけるリツキシマブの適用と併用免疫抑制療法	成人発症難治性ネフローゼ症候群に対し、リツキシマブの保険適応拡大が望まれている。実臨床上、難治性ネフローゼ症候群を呈する各疾患に対して、リツキシマブが広く投与されているが、投与のタイミング、投与回数、投与期間、MMFなど他の免疫抑制療法との併用など、統一した見解がなく、本セッションで議論したい。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：膠原病）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
シンポジウム26	腎臓病療養指導士介入の効果と検証 ※腎臓病療養指導士単位対象セッション	腎臓病療養指導が成功した事例を共有することにより、腎臓病療養指導士の活動実態とその効果を検証する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：看護師、薬剤師、管理栄養士）	日本語	多職種・患者会
シンポジウム27	保存的腎臓療法（CKM）の実際と展望（JSN/JSDT共同事業企画運営委員会企画）	CKMガイドが発刊されて1年が経ち、その内容に関するより正確な情報提供と問題点の整理とその対応をまとめる。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：透析、緩和ケア、在宅訪問医）	日本語	JSN/JSDT共同事業企画委員会
シンポジウム28	水・電解質・骨ミネラル代謝の最新知見	水・電解質調節代謝に関して、基礎と臨床、両方の知見から最新の情報を共有し、CKDにおける考え方を議論する。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
シンポジウム29	AKI研究の最先端	特異的な治療薬を持たないAKIに対して、治療ターゲットとなるpathwayの探索は重要である。AKIの腎臓内における最重要ターゲット細胞は近位尿細管細胞と考えられており、AKIにおける尿細管細胞の動態をそれぞれの専門家から最新の知見を紹介してもらう。本セッションでAKIの近位尿細管細胞で起きていることを整理し深掘りすることで、更なる研究進展の礎とする。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	AKI
シンポジウム30	脂質と糸球体疾患の最新知見	脂質代謝異常によるリポ蛋白糸球体症、先天性LCAT欠損あるいは抗LCAT抗体によるglomerulopathyは、糸球体への泡沫細胞集積を特徴とし、さらに近年新しい疾患として組織球性糸球体症やApoE2 homozygote glomerulopathyも報告されているが、いずれも腎臓内科医の認知度は低い。また治療面では不飽和脂肪酸の投与によるループスあるいはANCA関連腎炎の改善が動物実験および臨床においても報告されている。本セッションは脂質に関連した糸球体疾患や治療の最新知見をテーマとする。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
シンポジウム31	保存期CKD管理が腎代替療法開始後に及ぼす影響	保存期における腎臓専門医による管理が腎代替療法開始後の予後改善と関連することが数多く報告されている。しかし、どのような管理が腎代替療法開始後の予後に影響するのか、未だ明らかではない。そこで本企画では、腎代替療法開始後を見据えた保存期CKD管理の重要性に関して最新情報を提供していただく。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	ESRD（移植含む）
特別講演	超解像顕微鏡が導く腎臓の姿	ノーベル化学賞受賞テーマとなった超解像顕微鏡を用いた研究が腎臓研究のツールとして急速に発展を遂げています。今現在、何がどこまでできるのかの最新の知見を解説いただきます。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前）	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
ワークショップ1	AKI動物モデルの実際を考察する	AKIの研究を促進するために、基礎実験で用いられている動物モデルを整理する。論文や教科書には書かれていない動物実験で大切な部分、工夫している点を実際に行なっているエキスパートに画像を駆使して紹介してもらう。動物モデル作成における問題点、改良点、さらに動物モデルにおける臨床的意義を検討することで、AKI研究を行なっている若手研究者の日頃の疑問に答える。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：AKI）	日本語	AKI
ワークショップ2	AKD（acute kidney disease and disorders）を考える	KDIGO AKI診療ガイドラインで提唱された新たな疾患概念としてのacute kidney disease and disorders（AKD）に対して知見が蓄積しつつあり、臨床的見地から現状のAKDの疫学、問題点、今後の課題を、基礎的見地から病態整理、治療介入の可能性を議論する。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：AKI）	日本語	AKI
ワークショップ3	COVID-19関連腎障害UpToDate	withコロナ時代を迎えて、腎臓内科医が知っておくべきCOVID19の疫学および関連腎障害を理解する。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	CKD（DM腎症は除く）
ワークショップ4	腎臓内科領域における医療安全・医療事故の現状と課題	腎臓内科医が当事者となりうる重大インシデントについての企画です。特に、血管アクセスカテーテル挿入、管理関連、腎生検の大出血や透析回路外れ事故に関する対応を、右記対象者として、できればハンズオン企画です。カテーテル挿入・管理での当事者の多くは経験10年以内です。これは腎臓学会の若手会員が臨床を学ぶ過程で確実な主義を身につけておくべきことといえます。指導医が最新のGLに準じた指導ができるとも限らず、広く啓蒙したいと思います。	○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医）	日本語	企画・渉外委員会
ワークショップ5	患者の立場から見たCKD対策（小児期、移行期医療を中心に）	日本腎臓学会と小児腎臓病学会が連携し、小児腎臓病及び移行期医療を受けている患者との交流を促進する。	○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：すべての医療スタッフ）	日本語	多職種・患者会

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するものは◎）	セッション言語	領域
教育講演1	シングルセル解析・RNAseq 解析の達人に学ぶ	シングルセル解析、RNAseq のトップランナーに学ぶ。	○ 後期研修医以降 ○ 腎臓専門医 ◎ 専門家	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
教育講演2	マグネシウム代謝 新たな治療標的	微量元素の中でもマグネシウムは種々の酵素活性制御に関わる重要な元素である。腎臓領域においては高マグネシウム血症の懸念からThe lower, the betterの認識が長く続いたが、近年マグネシウムの重要性が示されつつあり、広く知識を共有したい。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家（領域：腎臓内科、小児科）	日本語	水電解質・酸塩基平衡、骨ミネラル代謝
教育講演3	夜間頻尿	超高齢社会を迎えた我が国では、高齢者のQOLを低下させる夜間頻尿が問題となっている。夜間頻尿の病因は単一ではなく、呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患などの内科的疾患のみならず睡眠障害や生活習慣など多彩である。腎臓専門医として、系統的なアプローチが必要であり、その知識の習得とまとめを目的とする。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前）	日本語	小児、遺伝性疾患、嚢胞性疾患、泌尿器疾患
教育講演4	糖尿病の診療アップデート	経口GLP-1阻害薬の登場、フィネレノンの2型糖尿病合併CKDへの保険適応、EMPA-Kidney試験の結果発表などを始め、糖尿病性腎臓病（DKD）診療は、日々進歩している。DKD診療の最新情報を紹介していただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家（領域：糖尿病専門医）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
教育講演5	CAPD			日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
教育講演6	腎臓内科医が知っておくべき泌尿器科の知識			日本語	
教育講演7	研究倫理・医療倫理に関する研修会	特に個人情報保護法の改正に伴う、ゲノム情報や臨床資料などの個人特定情報の取り扱いについての注意点などを含め講演をお願いする。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ○ 腎臓専門医（指導医） ○ 専門家	日本語	倫理委員会
教育講演8	論文投稿のポイント	論文投稿にも様々な形態が普及してきており、研究に携わる人が知っておくべき事柄も複雑化してきている。そこで本セッションでは、学術情報流通を担う出版社側の昨今の動向と研究者の心得について講演をいただく。	○ 学生 ○ 初期研修医 ○ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医） ◎ 専門家	日本語	基礎医学（発生、実験病理、実験生理、実験免疫）
教育講演9	ロジックで考える腎病理	糸球体疾患・尿細管間質性疾患の診断に腎病理は必須である。学生、研修医、専門医いずれにおいても、病態を正しく理解しながら、腎病変を的確に読むことは重要である。演者は「臨床医のための腎病理読解ロジック」を執筆し、論理的で分かりやすい腎病理の解説に定評がある。	◎ 学生 ◎ 初期研修医 ◎ 後期研修医以降（専門医試験受験前） ◎ 腎臓専門医（指導医）	日本語	糸球体・尿細管間質疾患（一次性、二次性（DM腎症も含む））
腎臓指導医講習会				日本語	教育専門医制度委員会
ダイバーシティ推進委員会企画				日本語	ダイバーシティ推進委員会

分類	セッションテーマ	企画のねらい	対象者（最も重要視するのは◎）	セッション言語	領域
招請講演1				英語	総会長特別企画
招請講演2				英語	総会長特別企画
招請講演3				英語	総会長特別企画
理事長講演				日本語	理事長企画
会長講演				日本語	総会長特別企画
Asian session・APSN CME joint symposium				英語	国際委員会
JSN/KSN Joint Symposium				英語	国際委員会
JSN/KDIGO Joint Symposium		2022年にKDIGOからADAとともに新たにCKDにおける糖尿病管理が改定された。我が国の新たなガイドラインとの相違や、新規治療薬を含めた将来のDKD治療をdiscussionすることは有意義ではないかと考える。	<input type="radio"/> 後期研修医以降（専門医試験受験前） <input type="radio"/> 腎臓専門医（指導医） <input type="radio"/> 専門家（領域：糖尿病専門医）	英語	国際委員会
JSN/ASN Joint Symposium		ポストコロナ時代を視野に、ASNとの対面交流を通じて人的交流を図り、最新の情報を交換・議論する。	<input type="radio"/> 学生 <input type="radio"/> 初期研修医 <input type="radio"/> 後期研修医以降（専門医試験受験前） <input type="radio"/> 腎臓専門医（指導医） <input type="radio"/> 専門家	英語	国際委員会
JSN/ERA Joint Symposium		JSNとERAは2015年より連携を強め、毎年のJoint symposiumではシニア2名、若手1名をそれぞれの学会から推薦し、講演を行ってきた。講演内容は基礎から臨床まで幅広く、Up to dateかつcutting edgeな内容である。	<input type="radio"/> 後期研修医以降（専門医試験受験前） <input type="radio"/> 腎臓専門医（指導医） <input type="radio"/> 専門家	英語	国際委員会
JSN/ISN Joint Symposium		南学ISN理事長に特別講演をいただき、ISNの新しいポリシーなどについて理解を深め、ISNにおけるJSNのステータスを高める。	<input type="radio"/> 学生 <input type="radio"/> 初期研修医 <input type="radio"/> 後期研修医以降（専門医試験受験前） <input type="radio"/> 腎臓専門医（指導医） <input type="radio"/> 専門家（研究者）	英語	国際委員会
大島賞受賞講演				英語	学会主導
CSA（Clinical Scientist Award）受賞講演				英語	学会主導
YIA（Young Investigator Award）受賞講演				英語	学会主導